

特 18 門
1833 號
46 卷



繪本古圖記に篇卷之十

目録

小田家功臣開國記分話

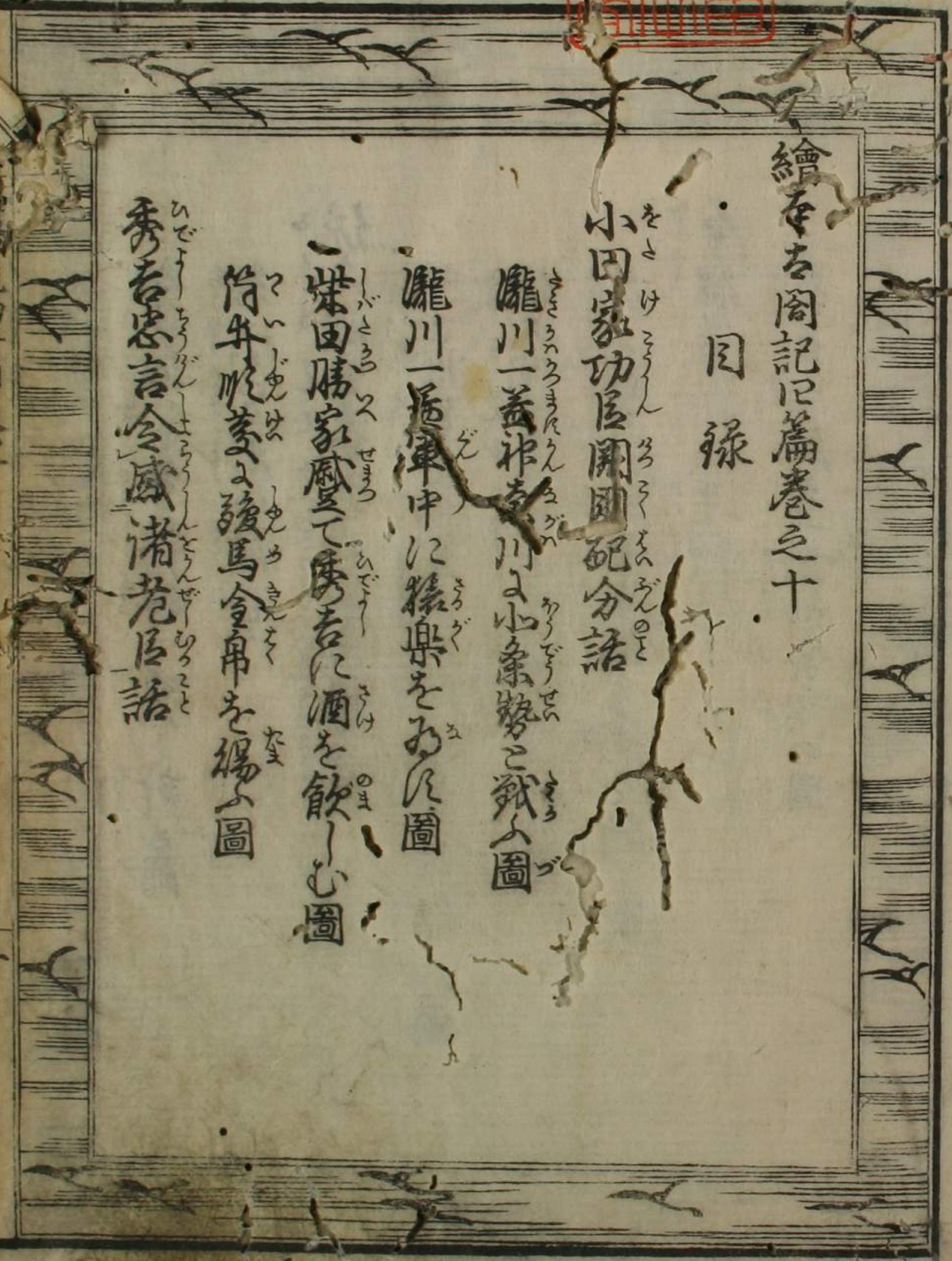
瀧川一益津川とががわと小糸勢こいとせう之戦いくさ圖

瀧川一益津中とががわに猿樂さるがくをのみ圖

柴田勝家しばたかつとむ感あはれて秀吉ひでよしに酒さけを飲のみむ圖

竹井たけい吹ふきまるる駿馬しゆんば金角きんかくを揚あぐ圖

秀吉忠言令威渚老臣話



柴田勝家秀吉を以て之と計る圖

光明皇后の故

依久間を番改め御害秀吉話

柴田勝家依久間を以て命じて秀吉を討つ心圖

依久間を番改め御害秀吉を以て命じて秀吉を討つ心圖

秀吉智計勝家を以て命じて秀吉を討つ心圖

本能寺追福連致語

秀吉本能寺へ本陣寄附の圖

繪本古圖記の篇卷之十

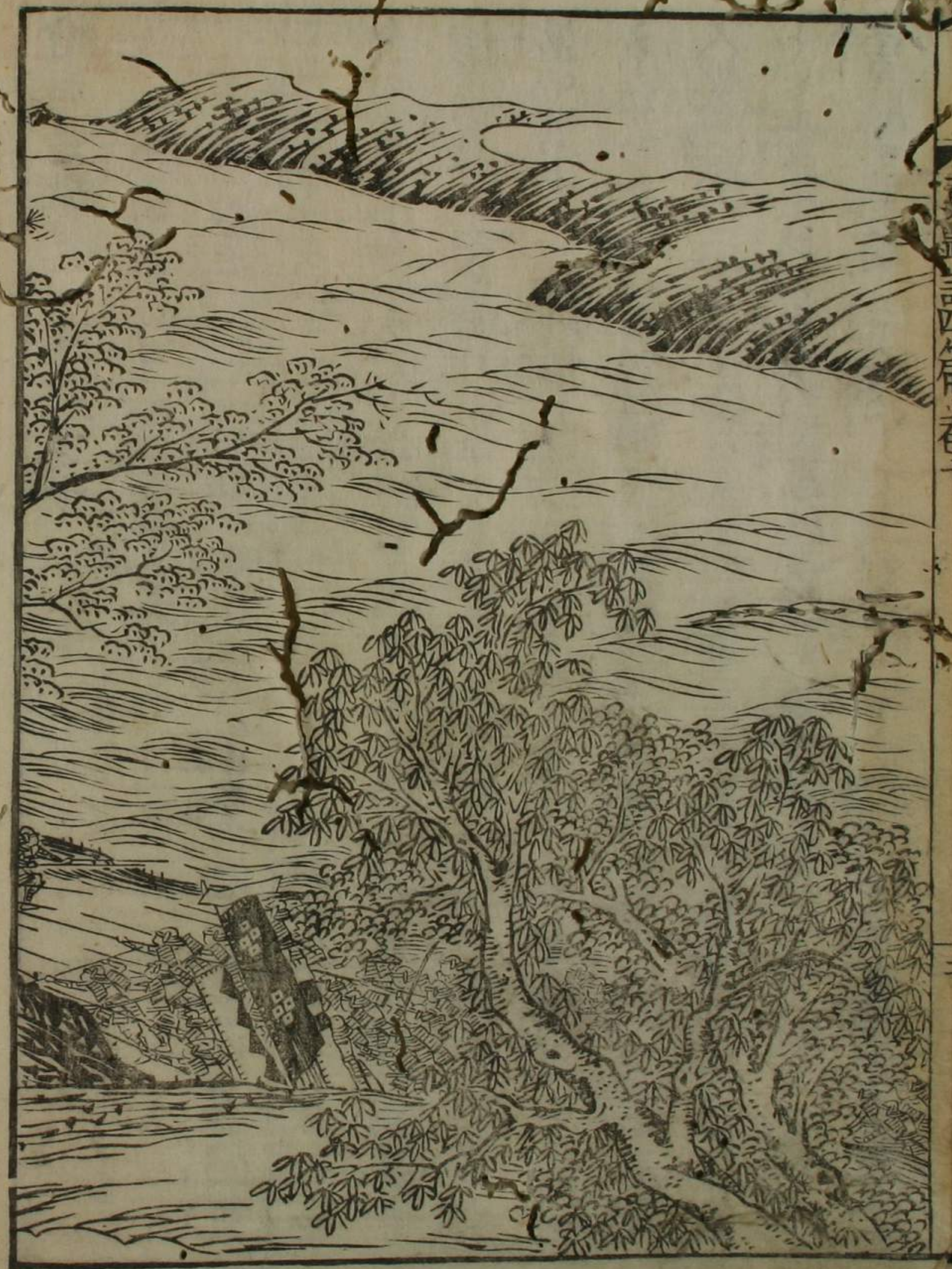
小田家功臣國圖配分

其廿一日龍川左近將監一益信國は兼着以て是るに月故有夫
臣の命よふに國東の官領は上野橋の城にて相別小田
原の城を小糸氏攻め合戦を執るは今日七日上方の飛脚列送て
信長と河原の豊洲のものを若く一益信國を押し送り長光秀吉退
治の事小糸氏に打捨り治せんと企てしは今日上方の諸將を以て
京都の事を語りて諸士の志を回諸士皆一益信國を別は腹く移
人傑と敵二心を以て示し一益大に在り上野の用を以ては心を
ふし小糸氏に討つ國東に抄ひて並り大敵を以ては枝く一益
勇威を以て示して上野を以ては月十日を勢一万余を兼





龍川一畫
御宗川
小宗物
或山園



東鑑言四卷下

國人其論の城を内裏大和守新内之城より由良信濃守松山の城より
 上回安徳秘悪の城より成田下総守敏林の城より吉尾新及即炭の城より
 小幡上総女倉賀野の城より倉賀野津守津守津守の城より上杉九郎重頼の
 等二万余人相合其勢二万余人鹿橋を立ておき十一日相回より陣は
 小糸氏政を遣はし自ら大軍とす陣は小幡原に對し武及甲山に出陣
 以先陣松田尾張守大石守駿河守芳賀守等氏政を先陣
 より坂東路よりと隔武及陣形の城より小糸安房守三万余人を陣甲
 山の合して倉賀野川を渡り龍川勢と合戦をほこり龍川の先陣は
 篠園平右衛門津田治右衛門龍川文之丞松田武及畠田忠直を即戦
 時傳亮日受及即左衛門等澹谷合せたまきり戦ひ勇と討て小糸
 安房守をえんく追ひつり勝鬨を揚ぐる由甲山の先陣松田芳

賀大石守等二万余人を小糸川より伏て三万余人を龍川勢と向戦
 龍川が兵は勇と進んでお戦ふ小糸方の伏勢知り立てに方々
 美討り龍川方利をえひは田治右衛門篠園平右衛門討死と一並
 自身歎ふ由り烈愛戦ひ終にお別れとす如く龍川倉賀野の城に
 入り其夜國人多小幡を告げ今日の合戦事と知して大感限りば
 我上國の後皆小糸を厲居城より安堵致さば武門の礼儀を乞ふ
 とて人候と返し遣はし酒宴を催し猿木を真郎一並自身
 報を打て其勇を軍中より示し翌十二日倉賀野の城をぬく由り
 陣と打退き宿陣に十三日信及小室よりて三日湯通て以馬の
 足をとけまらう道と急ぎ上國より十八日湯通る由り小糸安房守
 殿に書きたりし由り又將り湯通る由り湯通る由り湯通る由り湯通る由り



老の謀士より命を乞はせ龍川一益の計は信濃屋の男はて尚時小
 田家四老の中よりとを秀(英雄)之紫田勝家龍川が上着世を定て大
 よまむお計て秀吉に之とて我々龍川を私に拓きて中々(い)度
 右大臣御父の不意の候は付御地畧あり御臨目足中の婿若信者
 卿をこそお續「汝らなど大功のみ瓜秀吉を相(こ)つて若三法師殿を
 御家督に立するも既(も)治定(ちぢぢ)うり是秀吉が汝(き)に謀計(まうけい)とこそ見
 定められ足下信者卿と親族の因もあれ(い)身當家の御存我(わ)計
 賤(しん)命(めい)を秀吉を討(う)ち先君貞業の遺跡(いせき)永く退(ひ)き退(ひ)き
 互(たが)に解(と)れぬやま友成の心を(い)と席(せき)と進んで物(もの)傳(つた)ふ龍川
 尤(な)道(みち)打(う)ち兵(へい)隊(たい)美(み)濃(の)の(い)く秀(しゆ)吉(きち)が(い)心(こころ)に(い)度(た)の(い)大(おほ)變(へん)を(い)昔(むかし)に(い)天下(てんか)を(い)掌(て)り
 握(にぎ)せんと計(けい)る(い)我(わ)れも(い)こ(い)う推(お)し(い)せり(い)併(ひ)秀(しゆ)吉(きち)共(とも)智(ち)那(な)深(ふか)の(い)汝(き)

扱(あ)つころ(い)れ(い)急(い)ぎ(い)は(い)凜(れい)を(い)こ(い)と(い)せ(い)却(か)て(い)後(ご)面(めん)冠(かん)者(しや)計(けい)は(い)入(い)り(い)足(あ)下(か)も
 我(わ)れも(い)吊(た)合(あ)戦(せん)後(ご)と(い)る(い)瓜(う)姫(ひめ)も(い)秀(しゆ)吉(きち)を(い)計(けい)は(い)と(い)天下(てんか)の(い)笑(わら)ひと(い)家
 ろん(い)先(ま)出(で)附(つ)の(い)様(さま)と(い)候(こう)と(い)候(こう)と(い)を(い)計(けい)ひ(い)秀(しゆ)吉(きち)を(い)悪(あく)逆(さか)落(お)る(い)附(つ)と(い)結
 て(い)附(つ)は(い)は(い)び(い)ん(い)何(なに)の(い)難(がた)き(い)ゆ(い)ら(い)ん(い)足(あ)下(か)と(い)我(わ)れ(い)心(こころ)を(い)合(あ)さ(い)彼(か)洗
 着(ちやく)守(まも)る(い)と(い)ん(い)の(い)難(がた)き(い)は(い)非(ひ)心(こころ)を(い)女(め)と(い)て(い)附(つ)を(い)見(み)合(あ)ひ(い)と(い)此(こ)本(ほん)回(かい)と
 きて(い)甚(しん)恨(こん)ひ(い)西(せい)人(にん)雨(あ)降(ふ)殺(ころ)す(い)別(わか)れて(い)旅(りよ)宿(しゆく)は(い)ゆ(い)ら(い)つ(い)れ(い)る(い)小(こ)月(つき)二
 日(に)八(は)故(こ)右(みぎ)大臣(だいじん)月(つき)忌(い)の(い)辰(たつ)は(い)出(で)と(い)う(い)と(い)諸(しよ)君(きみ)悉(ことごと)く(い)喜(よろこ)ぶ(い)集(あつ)まり(い)靈(たま)聖(せい)を(い)拜(たま)ひ(い)拜
 一(ひと)命(いのち)を(い)後(ご)け(い)れ(い)て(い)後(ご)紫(むらさ)田(だ)匠(たく)師(し)池(い)渚(しほ)ね(い)小(こ)向(むか)ひ(い)中(なかつ)に(い)中(なかつ)今日(けふ)の(い)胸(むね)國(くに)の(い)地
 ども(い)別(わか)れ(い)ち(い)ら(い)各(各自)死(し)す(い)我(わ)れ(い)も(い)計(けい)ま(い)ぬ(い)入(い)り(い)角(かく)長(なが)秀(しゆ)吉(きち)羽(う)柴(しば)本(ほん)名(な)と
 系(けい)の(い)足(あ)下(か)の(い)後(ご)は(い)魚(い)の(い)お(い)く(い)お(い)親(お)と(い)天下(てんか)の(い)政(せい)乃(の)瓜(う)お(い)洗(せん)と(い)こ(い)計(けい)
 互(たが)に(い)其(その)心(こころ)を(い)あ(い)り(い)て(い)物(もの)は(い)し(い)と(い)そ(い)大(おほ)なる(い)盾(たて)も(い)儀(ぎ)と(い)酒(さけ)を(い)酌(しやく)せ(い)さ(い)ら(い)り(い)と



實言口之序卷十

吾行^{のり}を^まま^しとして日^ひ半^{はん}新^{しん}き^やの^りの^りも^も我^{わが}若^{わが}年^{ねん}の^り若^{わが}より^り先^{せん}鋒^{ほう}
 と^と遠^{とほ}強^{つよ}きを^{やぶ}破^{やぶ}り^破き^と碎^{くだ}き^と二^{ふた}の^り心^{こころ}を^あか^まさ^しる^もも^もは^は芝^{しば}忠^{ちゆう}と^と盡^つさんと
 思^{おも}ふ^のの^の之^{これ}を^し思^{おも}ひ^ごり^き西^{さい}若^{わが}地^ち界^{かい}は^はく^く今^{いま}我^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 は^はい^いや^や若^{わが}者^{もの}若^{わが}下^{した}の^り若^{わが}我^{わが}首^{くび}を^あや^やせん^んと^と我^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 る^る人^{ひと}之^{これ}れ^れが^が柴^{しば}田^{でん}が^が我^{わが}を^あ殺^{ころ}せん^んと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 今日^{けふ}の^の若^{わが}月^{つき}忌^いの^の追^お後^ご方^{かた}方^{かた}小^こ田^{でん}家^けの^の向^{むか}老^{らう}匠^{しやう}他^たの^の若^{わが}親^{せんと}系^{けい}の^の系^{けい}
 之^{これ}若^{わが}らん^{らん}も^も過^かか^かの^の後^ご又^{また}以^もて^て只^{ただ}今^{いま}より^{より}の^の初^{はつ}若^{わが}を^あか^まさ^して^て國^{くに}家^け政^{せい}府^ふの^の浮^う浪^{らう}
 こそ^{こそ}依^よ若^{わが}者^{もの}若^{わが}下^{した}の^り若^{わが}我^{わが}首^{くび}を^あや^やせん^んと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 堅^か固^こよ^よお^お後^ごの^の計^{けい}こそ^{こそ}何^{なに}も^もな^なか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 匠^{しやう}他^た若^{わが}者^{もの}若^{わが}下^{した}の^り若^{わが}我^{わが}首^{くび}を^あや^やせん^んと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 吾^{わが}を^あか^まさ^しる^もも^もは^は芝^{しば}忠^{ちゆう}と^と盡^つさんと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に

匠^{しやう}他^た之^{これ}を^し思^{おも}ひ^ごり^き西^{さい}若^{わが}地^ち界^{かい}は^はく^く今^{いま}我^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 出^い匠^{しやう}他^たの^の今^{いま}之^{これ}返^{かへ}返^{かへ}と^とこそ^{こそ}思^{おも}ひ^ごり^き西^{さい}若^{わが}地^ち界^{かい}は^はく^く今^{いま}我^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 之^{これ}初^{はつ}若^{わが}者^{もの}若^{わが}下^{した}の^り若^{わが}我^{わが}首^{くび}を^あや^やせん^んと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 柴^{しば}田^{でん}之^{これ}匠^{しやう}他^た其^{その}吾^{わが}を^あか^まさ^しる^もも^もは^は芝^{しば}忠^{ちゆう}と^と盡^つさんと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 才^{さい}飲^{いん}飲^{いん}也^や孰^た別^{べつ}者^{もの}若^{わが}下^{した}の^り若^{わが}我^{わが}首^{くび}を^あや^やせん^んと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 と^と匠^{しやう}他^た之^{これ}を^し思^{おも}ひ^ごり^き西^{さい}若^{わが}地^ち界^{かい}は^はく^く今^{いま}我^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 之^{これ}若^{わが}の^の月^{つき}辰^{ちん}る^るれ^れが^が淫^{やん}曲^{きよく}致^し舞^まも^も後^ごあ^あり^りい^いを^を仕^しら^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 曰^い若^{わが}下^{した}の^の地^ち界^{かい}長^{ちやう}溪^き又^{また}万^{まん}石^{せき}我^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 つ^つ若^{わが}者^{もの}若^{わが}下^{した}の^り若^{わが}我^{わが}首^{くび}を^あや^やせん^んと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 かく^{かく}若^{わが}下^{した}の^の命^{いのち}又^{また}害^{がい}み^みえ^えと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に
 才^{さい}飲^{いん}飲^{いん}也^や孰^た別^{べつ}者^{もの}若^{わが}下^{した}の^り若^{わが}我^{わが}首^{くび}を^あや^やせん^んと^とか^から^らし^しめ^め知^しり^り若^{わが}身^み命^{いのち}も^も御^ご心^{こころ}に^に

志きて四方の目を破り息を捨て居りたる年若完亦と笑す
 我族は近世の首をえ賜ふべきは又万石の地何より必て安んじ候
 長濱の我族并長政を退位の功より先君より賜ひたる年所懸
 命の地たるが故に暫く乞を疑機よりさしおき大坂の清原山堂
 辞らるのみみんや漸く送りやさんと云世固統へ向先當座の礼
 義又懐く統らば長濱を承く終はしとて妙に酒を皆のそと板
 関國配於衆後及及び功は修して定しるのたのぶく先信忠御
 の長三法師若三歳から成る三郎平秀信と改め安去の焼後又
 彼の河所と造營茶田玄法印張岩川丹波守と附人と乞に居
 たり道徳の功三十石を乞て河厨料と小島中泊信雄御の三法師
 秀信御の後陣代として尾張徳川と在城あり尾張徳川小島



母の侍
 順茶
 駿馬舎
 を賜ふ

物産にのり彩の地を百万石日後見御戸後信孝郷の豊
 一國又十石を領し彼阜と在城五羽柴坂守秀を領し
 彼一國柴田修理進正能勝家新領に長濱の計多又三令
 領大坂尾修兵庫十二万石是角又即九清門永秀の若及又
 の同志候より西那極体左即秀政に依り山其外龍川左
 相監一益又二万石峰谷兵庫に於て三万石を領し又居
 又加増せしめて領知し其能中秀吉長秀お入候今度光秀
 退治の軍切により其能地人より領し是衆後の上の定め
 柴田龍川等心又領し又強て拒難し角井吹雪の今度
 の戦功後解しとて三法師秀信及より強馬金帛を賜り
 安堵とて是旨除しあひ吹雪の大和國領りたり

秀吉を忠言令感諸老臣

去後小西家の家督お定り諸國の關地配當も海智く世と徳
 かりたるに格く持國へゆえき憐れと如く又依り陸奥の系
 着の後病悩甚く医療を加休居し度々の會合も致し
 漸け以平遠とれ柴田佐久間慶喜多るとして小國の心
 元なく六月廿七日雨之君の墓又請て廿八日小國の人教と致り
 小陸道へ發きたるを以柴田小國の藩務としてと扱の大敵を
 川も關東の管領小糸の強敵と對しれ故右大臣御父の申
 も勅され志は深うとれゆる強勅のおさるに以てく
 らひ難く進月夜國とて是も用意に及びる七月十日柴田
 正能諸將會して持國の職を以け日勝家面を和けお趣

真影記四篇卷十一

柴田勝家
秀吉公御
計取
圖

真影記四篇卷十一



十一

て酒宴をぬきては、こゝろ一座の面々安堵しては、酒酌は、
 真を惜しむ勝家大盃をそとて、さうして飲て大醉、
 酔を極め、目を閉き、腰をたれて羽柴流のついでに、
 とまき若侍ありて、さうして、さうして、
 二十二年、花又三首、
 あり巧者の極、
 一、
 榎庵と頼も、
 一匠、
 の、
 いそ、

は、こゝろ、
 大老の、
 かく、
 同席の、
 の、
 秀、
 右の、
 と、
 何人、
 や、
 かく、



光明皇后
の故事

真景
四女
卷下

摩訶得波之徒乞食して其處を何れに轉るを面と内心の深き大誓
ありて是より今天下の武將の三蔵たるを捨つ三法師の信御其大老
の教に別は羽柴義秀守人の按察の儀を以て天下の政を判めん心
及し若輩の系初る失言はいと思ふ心づくが爲め其の勝負は
よみ秀吉と切刃とて争ひて其を大膽不敵の羽柴秀吉徵伐して
之て曰古一人皇に十六代聖武天皇と申天子ははまらる其御后
佛乃瓜瓞傳はるの御身より光さるふより是と光明皇后と稱なる
け后大教を授け給ひ湯殿と三法師を以て后自ら一人の垢爪摺りせあり
抑るふ九百九十九人を終り今一人の御ふもく麻痺の乞食より肥肉と
まじりて膿血の外に溢れ其臭気も亦なうべし然れども是と厭ひ
給はしかのむく垢爪摺り給はる被服入后は白ひ我腫物瘡として

思ひ給はして后宮に於いては瓜瓞して彼麻痺を吸給ふけ乞食は
湯に入らばはかゝる光明を照し令之の佛体と化して飛ぶる給ひぬ
世后のけの教後生のおよじりける皇後の御身より麻痺の膿血
を吸給ふて厭ひ給ひは是れは佛教を心実にする我身を捨て
勉め給ふて天子に皇后と申給はるる今秀吉の牙は放る給はる
るも君の後と天下にまじりて定まらば西は毛利三家あり東は山内氏
政あり山内上杉景勝に國は長き我部元親あり出雲家の危き
風の茶の煙はほゆるを己方の敵國よりいざ軍を出さるるは
はじりて是も計ま不肖に似たり素等如君を補佐とる故
よもろ今正徳の心なほ我と我と相死せば小田家の垣石も崩
己方の敵後一尉は死すとも先君の始末は己方大業も安に

て加らんとし秀吉が身命に長く懸し思ふまじし此や匠仙の小回
家の大老匠まよりたりとすし秀吉は定腰を換摩りて死辱と
思ひもよび我の只當家お積のりつと思ひて身の恥を思ふ服
ちりしとやとんたつた勢ひ也(依久間玄蕃殿を履かせし此本回匠仙
お計多芝角摩惠多中河其余の諸士も一日は實に理りたる秀
吉が心体やと感涙を落し暫く言ふらうたり

依久間玄蕃殿の害秀吉

信濃在勤の諸侯を夫切若冲遺踪調ひしとんと思ひしに即服ア
上母の居城引えたる此本回匠仙勝家に来る十二日終末の旨お定め
らりし後約を言々たる羽柴流守秀吉の十三日國邊とて此
島村戸の両郷世間勝家もや述(既し親多に及びる時)此本回

勝家も依久間玄蕃殿を逆く扱きりたる叔も此夜羽柴流守
守と殺さんとていづく計ども渠後知恵を申し遣し得たり計
どは不秀吉を生垂く我心中徳かりし以明十三日秀吉當城と
致(長濱)三考城を用く我も支死して本國播磨へ歸る也
汝軍兵を列陣し今宵より秀吉が通約とてき御道と埋伏せし
をせし討殺せよとて後者の逃れも秀吉を殺す(我の我心安
らば仕換どろりのみぞい急げくとぞ知とんは依久間玄蕃殿
長し退いて秀吉が出まの勢と伺ふは終り三百余人の玄蕃心安
と一倍の軍兵六百余人を勝り出十二日の暮より信濃をいそ
よ打立く御る筋急ぎたる羽柴流守の秀吉の十三日の朝宣討
ま唐刺とて三百余人の勢前後を囲長濱にて出られりる

先之助

無政

秀吉

討

國



危うき次第の時、先之助は、先之助の機下、一里計去て、軍兵を
 埋伏せんと、安よ、彼不とん、巡る、その懐、や、何れの、勢も、急仕、
 百騎、余り、先之助、埋伏せり、玄蕃、又、心得、の、踰、踏、して、入、合、せ
 たり、が、何者の、勢、は、せよ、答、め、ら、ま、て、い、た、の、妨、げ、そ、う、先、之、助、は、
 一と三丁計、急、き、ま、る、が、不、思、後、か、う、る、ま、安、い、も、又、十、騎、計、の、伏、兵、を
 こ、い、ち、中、に、な、め、り、ひ、ま、る、不、伏、兵、其、中、より、兵、士、一、人、走、り、出、て、何、れ、の
 方、で、我、勢、を、何、の、加、ね、た、う、と、答、め、ら、ま、て、い、た、の、妨、げ、そ、う、先、之、助、は、
 奴、ら、討、教、さん、と、思、ひ、ひ、ま、る、大、の、若、乃、小、事、と、そ、う、も、う、ち
 捨、て、先、之、助、と、又、一、丁、程、の、間、に、其、辺、と、親、よ、み、あ、る、る、ま、は、い、あ、ぬ
 百、騎、余、り、の、勢、は、見、指、さ、う、玄、蕃、安、よ、お、ひ、く、甚、懐、心、利、さ、る、士
 衆、と、な、り、い、初、先、之、助、は、先、之、助、百、騎、へ、又、十、騎、七、十、騎、安、よ、し、こ

佐久間
の
國
み
と
ん
の
國





國々 折々 紅々 空々 勝々 秀々 智計

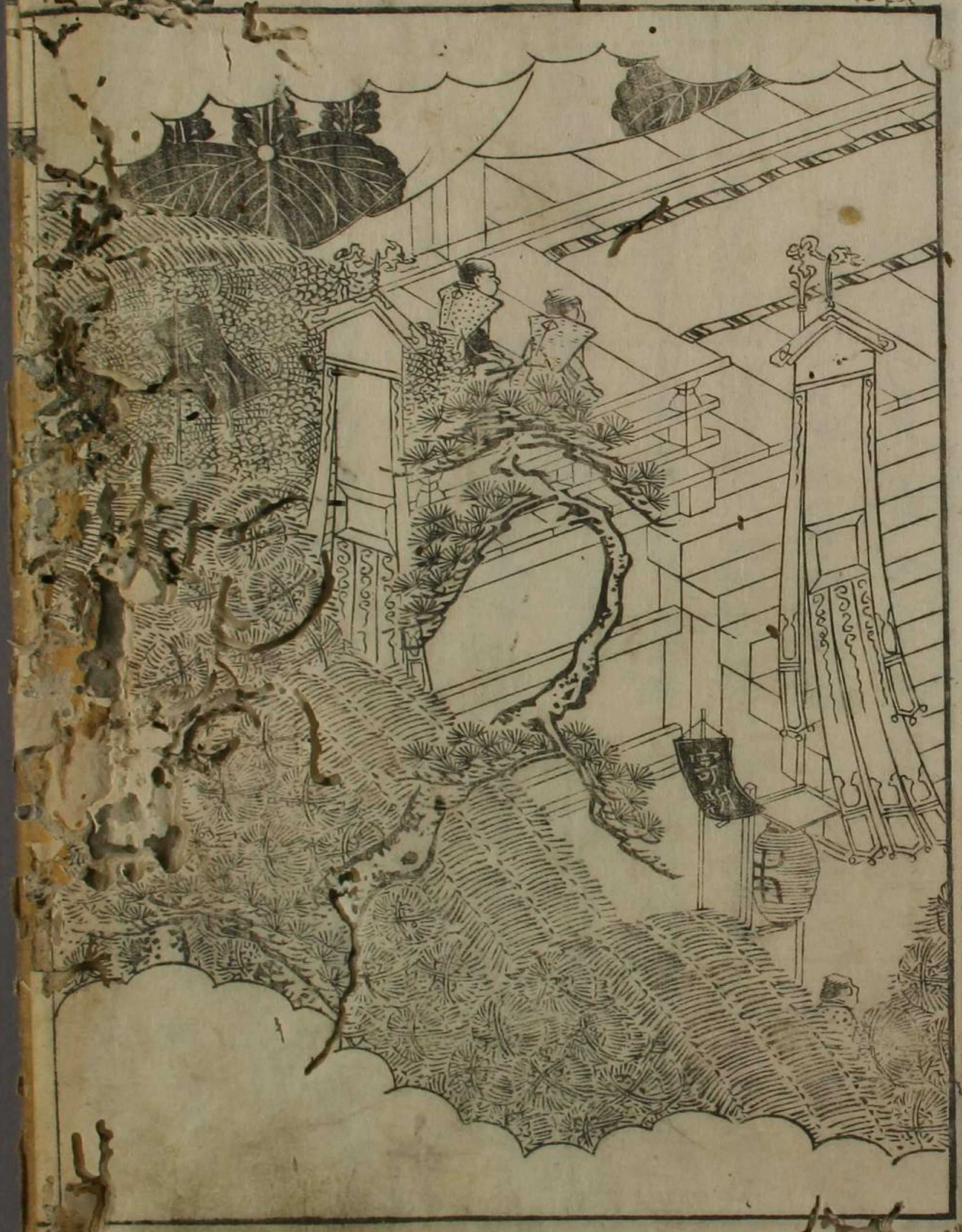
真蹟 四冊 卷十

五

凡るもの... 松戸切祐... 西条九郎... 二万三千人... 並ての計略... 羽の勝家... 日頃計後... 本能寺... 追後連飲

柴田匠... 羽柴筑... 日頃... 長溪... 上方... 高高山... 云... 將...

一頁 巳日...



とてう
秀吉本陣
米沙野附の圖

真景

日下中流に在りては本能寺の地を以て小田に於て
 寺を建てて系極通押小幡と智地を修り後の本堂を嘗て是後七
 日の間日蓮宗十八年寺の修造法義經一子部法蘭の首を茶子
 儀を圓一万貫寄附せし其外後毎年の心を付らば首尾よく佛の
 修りたる後秘の日細河刑部を末後日息より即忠伸追奉のふとく
 を修すの儀にして連致真妙の費悉く細河父子を嘗て云か門路
 武家僧侶教ふる志ある者悉く来會以け附角吹堂に出席し
 香奠して合子百両を修寺寄附せし其後
 墨その乃由なるや名あり神の露 友
 魂まつれ野の月の秋う勢 百

又けうえに陰の松虫音又鳴く 紹巴

以下百約これを略し連致終て後を後と押し遊秘と号し細河父子を
 神妙とて秀吉を以て世の人皆感敬し後二修法印と叙せられ細河
 源止法印と号せり羽柴統秀守秀吉に後遺を承せし先君慈顧
 の漏上押りて服膝禁廷の恩も厚く日月下旬秀吉を後に佐
 羽牙番長を後又佐又佐と世に威勢盛んありて月く月く
 栄入り

曾ある

